

中学校の部 最優秀賞 一本松中学校1年 ^{あかまつ}赤松 ^{うみ}羽望

四国防災八十八話 第68話 災害弱者の避難を的確に

「もしもを考えて」

大雨は、時に人の命を奪うことがあります。2018年に西日本豪雨がありました。私の家の周りも被害を受けました。コンクリートが崩れたり、池の水があふれたりしました。これまで、大雨でこんなにも被害を受けたことはありませんでした。同時に、とても怖い思いをしたのも初めてでした。不安で不安でたまりませんでした。この話の中でも人々は、せっぱ詰まった声で救援依頼の電話をかけていました。「道路が土石流で壊れて逃げ出せない。」、「家の裏山から滝のように水が流れ出して、今にも山が崩壊しそうだ。」、「家の前の川があふれて家の中に流れ込んでいる。」などと、必死に助けを求めています。しかし、このように救援依頼をしなくてもよいのは、早めの避難をした場合だと思います。私の家の裏には山がすぐそばにあり、地震や大雨があると崩れてきそうです。2018年の西日本豪雨のとき私は避難をしませんでした。家族が「大丈夫だろう。」と言ったからです。少し不安があったのですが、避難をしませんでした。でも、もしかしら、家の裏山が崩壊したり、家の中に水が流れ込んだりしていたかもしれません。大丈夫だと思って避難しないのではなく、もしもを考えて避難することが大事だと思います。また、避難するときも地域の人たちと助け合うことが大事ということも分かりました。この話では消防団や地域の人たちで施設の人を避難させたことによって、犠牲者が一人も出ませんでした。消防団や地域の人が協力し合い、どんなに困難なことでも、諦めずに立ち向かったからです。私もこの人たちのように、これから地域の人々と、心をつなげて、困難に立ち向かっていきたいと思っています。そして、早めの避難を心がけたいと思っています。